

3 実践事例とその考察

「時間軸」を踏まえて時代の変遷を総合的に考察させるワークシートを用いた授業実践

(2) 授業実践2 単元名：地方政治の変化から考える中世社会の成立

【単元について】

本小単元は、学習指導要領の日本史Bの大項目「(1) 原始・古代の日本と東アジア」の中項目「ウ古代国家の推移と社会の変化」の「東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭など諸地域の動向に着目して、古代国家の推移、文化の特色とその成立の背景及び中世社会の萌芽について考察させる」を受け設定している。特に、10世紀以降の地方政治の展開に伴って荘園が発達し、武士の台頭した地方を中心とした中世社会の萌芽について取り扱っている。

そこで、本小単元では、まず、第一、二次を通して、10世紀以降の地方政治の展開と武士の台頭について、中央と地方の関係を踏まえながら多角的・多面的に考察させる。そして、第三次における単元の振り返りでは、既習の知識を活用して、律令国家確立期の国司と10世紀以降の国司の相違点について比較させる学習活動を通して、中世社会における中央と地方の関係の変化について考察させたい。

【単元の目標】

10世紀以降の地方政治における中世社会の萌芽について、地方政治の展開と武士の台頭に着目しながら中央と地方の関係の変化を考察させる。

【単元の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
10世紀以降の地方政治における中世社会の萌芽について意欲的に追究している。	10世紀以降の地方政治における中世社会の萌芽から課題を見だし、中央と地方との関係の変化と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	10世紀以降の地方政治における中世社会の萌芽に関する情報を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	10世紀以降の地方政治における中世社会の萌芽についての基本的な事柄を、東国社会との関係の変化と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

【指導と評価の計画（全6時間）】

時程	学習活動	活用する資料等	評価の観点				評価規準
			関	思	技	知	
単元の基軸となる問い：中世社会において中央と地方との関係はどのように変化したか？							
第一次 (2時間扱い)	問い：10世紀の地方政治の転換と寄進地系荘園の発達はどのように関係しているか？						
	<p>○10世紀以降、国司の中でも受領を中心に地方政治が展開され、権力の分化や富の私有化などが進行したことをワークシートにまとめる。</p> <p>○荘園の発達についての諸資料の読み取った内容をワークシートに書いたり、発言したりする。活動を通して、土地の私有化が進行したことを考察する。</p>	<p>・偽籍の絵図</p> <p>・史料「尾張国郡司百姓等解」</p> <p>・史料「鹿子木の事」(東寺百合文書)</p> <p>・絵図「紀伊国加栲田荘」</p>	●				<p>◎10世紀が地方政治の展開によって転換点であったことに気づき、中世社会の萌芽について関心を高めている。 (ワークシート)</p> <p>◎2つの資料から当時発達した荘園の特徴について読み取っている。 (ワークシート、発言内容)</p>
第二次 (2時間扱い)	問い：なぜ武士が中央政界に進出したのか？						
	<p>○武士の成長について、中央政界の動向や国司との関わりを踏まえて理解する。また、地方における武士の反乱が、中央政界にどのような影響を与えたのかについて意見を交換する。</p> <p>○摂関政治期以降、武士の中で特に源氏が中央政界への進出したことを、東国武士との主従関係の強化を踏まえてワークシートにまとめている。</p>	<p>・武士団の構成の図</p> <p>・源氏の系図</p> <p>・関連する年表</p>				<p>● ◎武士の成長についての基本的な事柄を理解している。 (ワークシート、発言内容)</p> <p>● ◎源氏の中央政界への進出についての基本的な事柄を、東国社会との関係を踏まえて理解している。 (ワークシート)</p>	


時程	学習活動	活用する資料等	評価の観点				評価規準
			関	思	技	知	
第二次 (2時間扱い) 本時1/2	問い：地方社会の変化は中央の政治にどのような影響を与えたか？						
	<p>○第三次までの学習内容を振り返るため、本時の問い「8世紀の律令国家における国司と10世紀の国司との違い」に着目し、地方政治の変質についての知識を精選・関連付ける学習活動を通して、2つの時期の国司の共通点・相違点をワークシートに整理する。</p> <p><本時></p> <p>○前時の学習活動をもとに、「8世紀の国司と10世紀の国司に相違点がある理由をグループで考察する。活動を通して、中央と地方との関係がどのように変化したのかをワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 史料「筑紫守道君首名の業績」 史料「尾張国郡司百姓等解」 	●				<p>◎本時の問いに答えるために必要な知識を精選し、関連付けができています。 (ワークシート)</p> <p>◎前時の学習内容から必要な知識を精選し、根拠をもって本時の学習内容を踏まえ、10世紀以降の地方政治における国司の役割の変化について、その背景を踏まえて理由を説明している。 (ワークシート)</p>
事後	・ペーパーテストの実施		○	○	○		

【本時の展開（5/6）】

本時の目標

- ・10世紀以降の地方政治の展開についての多面的・多角的な考察のために、本時の問いを基に必要な知識を精選し、関連付けさせる。【思考・判断・表現】

授業の実際

	学習活動	教師の支援 (◆)・発問 (T)、生徒の発言 (S)、評価 (●)
導入 (10分)	<p>○ 2つの史料の比較を通して、2つの時期の国司の相違点について理解する。それを踏まえて、「本時の問い」を把握する。</p>	<p>◆ 発言を板書しながら、各時期の国司の違いを可視化した。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>≪教師の発問と生徒の発言≫</p> <p>T : 8世紀初頭の国司と10世紀の国司の2人について、違い(印象、人柄、取組、感じた印象)について資料を踏まえてワークシートに書き込みなさい。(2人組で話し合い、その後指名して発表)</p> <p>S : 8世紀の国司だった筑紫守道君首名は・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国司としての仕事にきちんと取り組んでいる。 ・ 民衆に農業を勧め、まじめに取り組んでいる。 ・ 農民のために、農民に厳しくしている。 <p>など</p> <p>S : 10世紀の国司だった藤原元命は・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国司なのに自分の利益を貪っている。 ・ 不当に税を徴集するなど、好き勝手にしている。 ・ 自分のために人民に厳しくしている。 <p>など</p> <p>T : 国司という職に変わりはないから共通していることもあるはず。今日はその共通点・相違点について考えます。</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>各時期の国司を比較する板書</p> </div>
<p>本時の問い「7世紀末～8世紀初頭の律令国家確立期の国司と、10世紀以降の国司の共通点・相違点は何か」</p>		
	<p>○ 「本時の問い」を考察するために必要な2つの時期の国司に関わる知識を精選し、ワークシートに整理し、関連付ける。</p>	<p>◆ 知識の精選に当たっては、問いに答えるための「核となる知識」「補足的な知識」などを区別しながら配置させた。</p> <p>◆ 知識の関連付けは、線を引かせたり、線上に関連付ける理由等を記載させたりした。</p>

展開
(30分)

○律令国家確立期における国司と10世紀以降の国司の共通点と相違点を踏まえながら、ワークシートの記入内容を共有する。

- ・クラス全体で活動内容を共有する。
- ・共有した内容と自分が整理した内容を比較する。

◆共通点と相違点の発見につながるように、知識と知識をどのように関連付けたのか、その根拠を述べさせるような発問を行った。その内容を板書して全体で共有した。



板書で内容を共有

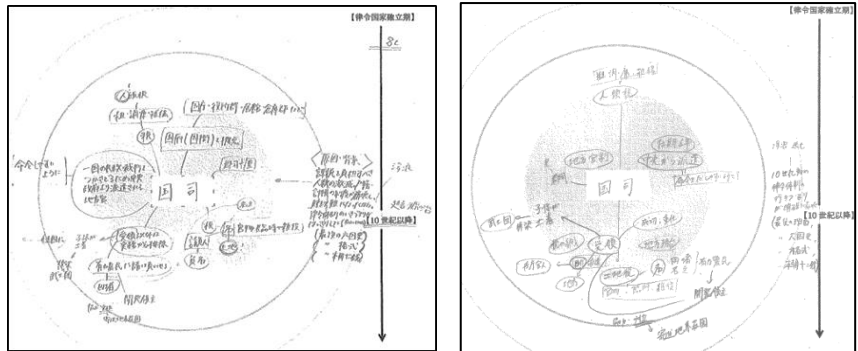
《教師の発問と生徒の発言》

【8世紀の国司に関して】

- T: どのような人が国司になった?
 S: 中央の貴族。
 T: 国司の役割があった?なぜ地方に派遣された?
 S: 中央の朝廷の政策(税の徴収など)を地方政治に反映させるため。
 T: では、税の徴収はどのように行っていた?
 S: 戸籍や計帳に基づいて、郡・里(郡司・里長)を通して徴収された。
 T: なぜ戸籍や計帳が必要だったの?
 S: 令に定められた税を一定の基準によって徴収するため。 など

【10世紀以降の国司に関して】

- T: まず、変わっていないところは?
 S: 国司が国家の財政を支えている。
 T: では、どんな変化があった?
 S: 税の徴収方法が変わった。律令制度では人頭税が中心だったが、課税の単位が土地になり、受領の国司が負名から徴税するようになった。 など



生徒のワークシート

●【思・判・表】の評価(ワークシートの記入内容)

(B)「おおむね満足できる」状況と判断される目安

「本時の問い」に答えるために必要だと判断した「核となる知識」を中心に整理し、時代の変遷(時間軸)を踏まえて関連付けて記入している。

(A)「十分満足できる」状況と判断される目安

(B)に加えて、8世紀の国司と10世紀の国司の相違点が明確になるように記入できている。

(C)「努力を要する」の場合の支援

8世紀の律令制度における国司の役割を振り返らせ、その役割が10世紀以降に変わったのか、変わっていないのかを検討させる。

まとめ (10分)	○次時の活動に向けて、各時期の国司を比較し、どのような共通点・相違点があるのかをワークシートにまとめる。	◆次時は、国司の役割が変質した理由（「相違点」の理由）を中心に考えていくことになるので、「相違点」についての記述を充実するように伝えた。
--------------	--	--